

	評価項目	総評(意見・改善策)
保育計画に関する評価	保育目標について	保育理念に基づいて、保育の柱となるべく目標を2つ設定した。保育者として向上心をもち子どもとの関りから学ぶ姿勢をもって保育にあたってほしいと考え、その為にまずは保育者一人一人の思いを汲み取りやりたい保育をできるようにすること、園として大切にしたいことを伝えていく事に重点を置いた。園として大切にしたい事としては、子どもが主役であることで、まだまだ保育者にしてもらう事が多い年齢でも保育者のペースで「される」のではなく自分の意思で「してもらう」という関わり方を丁寧にくり返すことで、2歳児はひとりひとりが自分の思いを出して生活し、遊べるようになり卒園となった。0、1歳児も、自我を持ち相手と関わられるように育てている。まだまだ保育士の個人のスキルで成り立っている状況があるので、個の力を園全体の力にできるよう保育目標の共有化をすすめていきたい。
	保育について	コロナ禍で実質7月から本格的な登園が始まり、ほとんどの子が初めての集団生活という中、年齢に合わせてどこまでを目標としていくか悩みながらも目の前の子どもたちの姿に合わせて柔軟に設定していった。お天気の良い日は公園などに出かけての戸外遊びを基本に毎日の生活の流れをつくり、自分でわかってできることを増やすことができた。公園までの移動の仕方や公園に着いた時の安全確認の仕方について保育士によってバラつきがあったので、次年度より園としての確立した方法で行っていききたい。室内あそびにおいては各クラスで工夫を凝らし子どもが楽しめるようにしていたが、玩具や遊具で遊ばせることから、玩具や遊具を使って保育者や友だちと楽しむ遊びをつくるようにしていきたい。
	行事について	コロナ禍の為親子で参加して頂く行事は入園式と卒園式のみ行った。季節の行事を行ってきたが、クラスでの取り組みの集大成として当日の集まりを行い、昼食やおやつで行事を感じるものを食べるといった数日間かけてじっくりゆっくり味わう行事の進め方を行った。次第にみんなで集まると何か楽しい事があると期待するようになってきたので、次年度は集まりの内容を更に多彩に膨らませていきたい。
保育計画を支える諸条件に関する評価	分掌・体制	保育責任者と管理責任者と連携し園として大切にしたい保育の考えを統一していくことに努めた。コロナ禍で全員の預かりが7月からはじまり、制約のあるなかでの保育で体制を整えることがなかなかできなかった。毎日の計画、全体のバランスを見ながら、安全、安心の保育を行うことを中心にしていったが、次年度はさらに園外園内の研修に参加し、保育について話し合い、園として大切にしたい保育をどのように保育の中に反映していくかを考えて体制をつくっていききたい。
	運営	会社の「マニュアル」の読み合わせを年度初めに行い、職員全員の仕事内容、ルール統一をおこなったが、新園の決まっていない事に対する対応は、コロナ禍もあり、状況を見ながら園の運営を行っていった。決まっていない事への臨機対応が多く、初年度ということもあり、保育士それぞれの考え、理解が統一せず、まとまりきれなかったことで、バラバラ感があったように思う。また、2園目となる新園への会社のフォロー、1園目の園との統一はできておらず、どこまでを統一していったらよいのか共有することは何かを現場責任者たちがよく本社の運営と話し合い、運営を考えていくことが園の質を保つうえでの今後の課題である。
	年齢別・クラス運営	クラスの運営は月初に全体会議、食育会議、月末にクラス会議を行い、その月の振り返りを行い、次の月の保育に活かしていけるように流れを現場保育士につたえていった。各クラスごとのしっかりとしたねらい、計画をたてることも整わず、毎日の保育がただ、すすんでしまう様子がみられた。各クラスごとの活動、各クラス同士の連携はとれていなかったため、保育の計画目標を日々の保育へ取り入れていきながら活動の内容、配慮についても内容の濃い保育にしていけるように引き続き、指導していく必要がある。
	保健・安全指導	保育士・栄養士などすべての保育者がそれぞれの専門の知識をもとに、保護者や子どもたちに分かりやすい言葉で健康、衛生面について家庭でも気を付けていけるように支援していった。保健日誌に毎日の健康状態を細かく、記録していくことを全職員がしっかりできることを指導していったが、まだ抜けてしまっていることも多く見られた。引き続き、全職員が確実に引き継ぎを行い、報告、記録をしていけるように徹底し、リスクマネジメントをしっかり責任者はおこなって衛生、安全に努めていく。今後も安全点検や、嘔吐処理、健康管理についても全員に知識の習得が必要であり、学ぶ大切さを伝えていく。感染症発生時には保護者に対して迅速に情報提供し拡散拡大防止に努めた。市の健診情報なども提示して啓発を行い、安全、衛生的な環境づくりの改善をおこなっていく。
	園内外研究・研修	コロナ禍で園外研修はほとんど開催されず、後半にオンラインで何名か研修に参加した。オンラインで参加をすると他の園の資格者との交流、共感はなく、一人で部屋で参加し知識のみ得ることになるので、あまり職員にとって向上感が持つことが難しいようにみえた。研修の内容を保育に取り入れていこうという気持ちにまでつながらなかったため、残念に思う。次年度は、学んできたこと、共感したことなど毎日の保育にとりいれたいと思えるように園内の研修につなげていき、保育の質向上につなげることを課題として園内研修をおこなっていくことを課題としたい。園内研修としては基本的な衛生面への意識、子どもの健康面、安全面の知識の修得を目的とし、定期的に季節、時期にあわせて、資料を配り、月初めに全体に話をしていた。
	情報について	各帳簿・書類等が適切に保管・処理・管理されているか施錠の確認を毎日行い管理している。法令遵守については、園の玄関の目につきやすい場所に、職員と保護者にわかりやすく掲示している。個人情報の保守について、規約を見直すとともに、職員にも教育をしていくことを役職者の責務とし、規約の内容をマニュアルの中に取り入れた。保育室にある書類、ノートなどの個人情報の管理は甘くなってしまうので、毎日片づけ、管理に気を付けていくことを徹底していく。
	施設・設備	保育室内外の設備に関しては、毎日の点検、補修を行いながら、安全を重視しすぐに整備することに努めた。1年の中でも、ネジのゆるみ、破損、日々などがみられ、修理、補修しながらの保育になった。各クラスの家具の配置、動線も試行錯誤をしながら、おこなった1年なので、保育の環境が良くなるように整えて、話し合いを重ねながら改善していきたい。
	施設間交流連携	コロナ禍で始まった年度で、近隣施設、連携園とも交流をすることが難しく、六ッ川西保育園の最小限の年2回の健診の交流のみしかできなかった。状況を見ながら、少しずつ連携施設との合同保育、行事への参加も行いたい。保育者の中で、どんなことを交流で行い、保育にとりいれていききたいか、どんな利点があるのかなど意見を出し合い、保育者全員でイメージを固めていくことを進めて企画、実施していきたい。
	家庭・地域との連帯	家庭との連携は、日常の送迎時に保育室にはいることも制限されていたので、玄関先での可能な限りでの情報交換をし、信頼につなげていくことを1番に考えていった。子育ての不安手助け、保護者支援を行うことを職員全員で認識し、できることは何かを考え、ポートフォリオ、食育ノート、栽培した野菜、親子で野菜に触ってもらうことなどみてもらえる保育を心がけていった。保護者からも喜んでもらえたお声をいただいたので、つづけて支援の気持ちを忘れずにいきたい。地域との連携については、近隣への挨拶ぐらいしかできなかったが、災害時などに助けてもらえるように日頃から連携を取り続けていきたい。
情報発信	ホームページに園便り、給食便りなどを毎月掲載し情報を常に発信するようにしていった。また、写真の販売、行事の様子をHP上で閲覧できるようにし、保育園の生活が保護者や、園に関心のある方によくわかるように情報の発信に努めていった。「関心をもってもらえる保育」を実施する保育園を目指して、ブログも来年度は始めていきたい。	
衛生管理について	保育室は、それぞれの項目に従い、毎月1回の衛生管理点検、毎日の衛生管理・清掃チェックに常時努めている。今年度はコロナの流行もあり、職員の体調管理、園内に入室する際の体温チェック、消毒、手洗いの実施を行う。また、次亜塩素酸ナトリウム精製機を追加購入し、子どもの触るもの、口に入れるのものにもすぐに除菌でき、ピューラックスが使用できない物にも対応ができるようにした。給食室は、2か月に1度の害虫駆除、日々点検表に加え、定期点検表を用いて衛生面に気をつけた。また、調理従事者に2度手洗い、アルコール消毒の徹底をした。加熱調理の際、中心温度の確認の徹底、原材料の温度管理についても注意して調理していった。器具、機械の点検も記録し、異物混入等を未然に防ぐことに努めた。全体的に建物内の湿度は、高いので保育室、給食室ともにカビや害虫の発生に気を付け、季節の感染症の流行にも気を付けていきたい。	

給食関係	調理内容について	食材の栄養を逃さないようにスチームコンベクションを活用し下処理を丁寧に行った。出汗を使い、素材の味を大切に薄味を心掛けた。子どもの嗜好や咀嚼機能を考慮し、食材の大きさ、食感、食べやすさに気を付け調理にあたった。行事食やお誕生メニューを取り入れることで日本の伝統に触れ、給食の時間を楽しく過ごせるよう努めた。毎月の給食会議では子どもの食べている姿や日々の残食を参考に改善、工夫を行い保育者と話し合い、献立を工夫した。家庭での食生活の改善やアドバイスとしてお便りやメニューの紹介、食の大切さをお伝えていかれる行事、ブログ配信などを次年度はおこなっていききたい。
	食育について	コロナ禍であったが保育士との会議を月1回行い、年齢にあった食育を可能な限り無理なく進めることができた。野菜観察や調理の皮むきなどのお手伝い、野菜スタンプなど子どもの成長に合わせて行い、その内容を保護者に発信することで食に対する関心を高めることができた。栽培活動では、ラディッシュ、なす、きゅうり、ミニ大根、などを育て自然に関わりながら食の育ちに触れることで食べ物に親しみを持ち食事を楽しみ時間にするように試みた。保護者からも嬉しい声をいただいているので、食を大切に続けていききたい。
	健康管理について	毎月1回給食便りを発行し、食べる事の重要性や旬の食材の紹介、夏バテや食中毒などその季節に合った内容を掲載することで保護者にも健康管理を意識してもらえるように支援した。毎月の身長体重を元に栄養計算にとりいれて考慮し献立を工夫していった。また、保健日誌に細かい情報を記入し全職員が全クラス・全園児の健康状態の情報を共有して毎日の保育にこまかく対応できるようにしていった。アレルギーマニュアルや感染症の流行時の適切な対応や嘔吐物等の処理の研修をして保育士の指導を引き続き行っていききたい。また、掲示板に発生状況を随時に知らせ、発生の拡大予防に努めている。
事務	事務管理について	園で使用するすべての書類を系列園と一緒に整理し、保管期間、方法について会社として規約をまとめた。これをもとに書類の保管、管理を徹底していく。書類の保管方法、個人情報の管理を現場、保育士にも指導していくことを続けていく。本社、系列園とのデータのやり取りをPC上の共有ファイルを使うことで、メールの添付でのやりとりを行わないようにデータ上の書類の管理にも気を付けていく体制をととのえていく。